

【2-12】

湾・灘の区分	播磨灘・紀伊水道
取組の名称	漁場環境改善推進事業のうち「栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発」
事業期間及び事業費	事業期間:H30～継続実施中 事業費:2,164千円(H31)
事業体制	【事業実施】徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課 【管理・バックアップ】徳島県立農林水産総合技術支援センター経営推進課
事業の背景・目的	<p>・栄養塩不足によりワカメ養殖漁場における色落ち現象が頻発</p> <p>・色落ち商品価値を損なわせ漁業の経営に悪影響を与えるため、対策手法の開発が必要</p>  <p>色落ちしたワカメ(右)</p>
事業場所の詳細	徳島県内の播磨灘・紀伊水道沿岸
事業内容	<p><藻類養殖用施肥剤の開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5Lまたは10Lのウォータータンクに肥料成分を含む寒天を充填 ・側面の穴から肥料成分が海中に溶出  <ul style="list-style-type: none"> ・5Lまたは10Lのウォータータンクに肥料成分を含む寒天を充填 ・側面の穴から肥料成分が海中に溶出
効果・影響のモニタリング手法(時期、場所、項目、把握すべき事項等)	
取組による効果・影響及びその判断基準等	<p>施肥剤周辺のワカメではSPAD値*が上昇し、色落ち回復効果が確認された。</p> <p>*ワカメに含まれる葉緑素(クロロフィル)量を示す指標値</p>
モニタリングの留意点等	
現状での課題	<p>・波浪の影響で、施肥剤中の寒天が崩れたり、施肥剤の揺られ方が一定にならなかったため、肥料成分の溶出速度が不安定になる。</p>
今後の予定等	<p>・気象条件に関わらず、肥料成分の溶出速度が一定になるように施肥剤の構造を改良する</p> <p>⇒施肥剤の溶出特性をより優れたものに</p>
取組事例についての発表資料等	瀬戸内海環境保全小委員会(第15回)資料
情報提供元	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課